

1 日 時 令和 5 年 8 月 17 日 木曜日

開会 10 時 00 分 閉会 12 時 00 分

2 場 所 京都市総合教育センター 第 1 研修室

3 出席者	教 育 長	稲田 新吾
	委 員	奥野 史子
	委 員	笹岡 隆甫
	委 員	野口 範子
	委 員	松山 大耕

4 欠席者 委 員 石井 英真

5 傍聴者 20 名

6 議事の概要

(1) 開会

10 時 00 分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1495 回京都市教育委員会会議の会議録について、教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案 1 件

イ 議決事項

議第 10 号 令和 6 年度から令和 9 年度まで京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）において使用する教科書の採択について

（事務局説明 土屋 学校指導課担当課長）

まず、議案の説明に先立ち、教科書採択事務の経過について御説明申し上げます。

はじめに、「1 教科書採択の主な経過」についてである。学校現場の教員及び各教科の指導主事、保護者代表、学識経験者の計 110 名からなる「京都市小学校教科書選定委員会」を 5 月 29 日に開催し、教育長から教科書の選定についての諮問を行った。この諮問を受け、教科書選定委員会では、全体会を 3 回実施した。5 月 29 日の第 1 回目では、5 月 11 日の教育委員会で議決された「教科書採択に関わる基本方針」及び「選定の観点」を確認し、

各教科書の点検やスケジュール確認などを行った。6月27日の第2回目では、教科ごとの調査研究部会から調査の進捗状況の報告と質疑が行われ、7月24日の第3回目では答申内容の大枠が決定され、7月28日に教育長に答申を提出した。

この間、選定委員会においては、学識経験者や保護者代表の委員から、多岐にわたって様々な御意見を頂戴し、全体会以外に、諮問から答申までの約2か月の間に、各教科の調査研究部会が延べ129回開催され、熱心な審議が行われた。

併せて、教育委員会においても、選定委員会の経過や協議内容、調査研究の状況、教科書の特徴等について適宜報告し、協議いただくと共に、8月3日に答申内容の説明を行った。以上が、教科書採択の主な経過である。

続いて、教科書採択に係る議案について御説明申し上げる。採択案は資料「01_議案」の一覧のとおりである。続いて、議案説明資料別紙1の「各教科書の主な特徴等について」に沿って各教科の選定理由を各教科指導主事から御説明申し上げる。はじめに、国語科から算数科まで御説明申し上げる。

(教科ごとに指導主事から説明)

国語科3社について御説明申し上げる。「東京書籍」においては、図書館活用等の読書単元を年間3か所設定し、1年を通して読書に親しむ習慣や態度を育むことができる。著名人による読書体験文を紹介するなど、読書への興味・関心を高めるための工夫が優れている。各単元の冒頭では、どのような言語活動を通して資質・能力を育成していくのかイメージできるように示され、各言語活動の単元に具体的な活動が分かるよう提示されている。巻頭で学習の進め方の全体を示し、各単元冒頭で学習活動の核を浮き立たせ、児童が見通しを持ち、主体的に学習を進められるよう工夫されている。「教育出版」においては、学校図書館を活用するための教材と、日常生活にて活発に読書を行うための交流教材を全学年に設け、読書習慣の基盤を築くことができ、読書を促すよう巻末付録にて図書紹介ページを設けている。「読む」単元では、学習内容をめあてと共にイラストとセリフで示し、各言語活動の単元名にそれぞれの具体的な活動が明示されている。併せて、単元冒頭や単元末でそれぞれ学習過程を示し、重要な学習部分にはハイライト表示を施し、児童が見通しを持つことができるよう工夫しているが、学年の初めに学習の進め方を説明するページがなく、活動例も指示的な表現にとどまっており、児童が意欲を高め主体的に学ぶための工夫としては弱い。「光村図書出版」においては、単元の学習と関連させた様々な角度からの本を紹介し、巻末付録でもテーマ・ジャンル別に分け多様な図書を紹介、年2回の読書単元を設け、日常的に図書館を利用し、読書に親しみ、学習に生かすことができる点が優れている。各単元冒頭では、どのような言語活動を通して資質・能力を育成していくのかを具体的に示し、単元名に育成をめざす資質・能力と具体的活動の両方を明示し、児童がめあてを意識して学習を進められる点が優れている。巻頭で学習過程や学習内容を示し、各単元の冒頭に自らが課題を設定する項目を設け、学習過程に沿って資質・能力が育成でき、優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考える。

国語科・書写3社について御説明申し上げる。「東京書籍」においては、古典作品や文字の歴史などを取り上げ、百人一首、漢詩などを書く教材に配置し、伝統的な言語文化への理解を深める工夫がされている。また4段階の学習活動の中で対話を通して課題を発見で

きるよう、「書写のかぎ」にて重要ポイントの考えを深める問いが提示され、主体的・対話的な学習を進められるようになっている。毛筆学習で学んだ書き方を他の文字で書いてポイントを確認できる構成とするなど、毛筆と硬筆の関連が図られている。「教育出版」においては、文字の成り立ちや歴史などを取り上げながら伝統的な言語文化への興味・関心を高める工夫がされている。4段階の学習活動における課題発見や話し合い活動、振り返りの視点を児童が理解しやすいよう、丁寧に提示している。自分のめあてを基に主体的に学習に取り組める教材と、友達と話し合いながら課題を解決する教材が用意され、主体的・対話的な学習が展開できるよう工夫されている。併せて、毛筆学習の前後に、同じ文字を硬筆で書く欄を隣接ページ内に掲載し、児童自身で学習前後の変容を確認でき、毛筆と硬筆の関連が図られている点が優れている。「光村図書出版」においては、文字の歴史などを取り上げながら、書き初めや俳句等を書く教材を配置し、伝統的な言語文化への興味・関心を高められるようになっている。3段階の学習活動では、課題発見や話し合い活動の視点を児童が理解しやすいよう、目次で写真やセリフを使い提示しているが、課題発見や活動を促す問いや視点は示されておらず、主体的・対話的な学習を展開するための工夫が弱い。毛筆学習で書いた文字を硬筆のなぞり書きで確認することができる構成とし、毛筆と硬筆の関連が図られている。

以上を総合的に勘案した結果、「教育出版」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

社会科3社について概要を御説明申し上げる。「東京書籍」においては、「学習の進め方」にて、社会的な見方・考え方を4つに分類して解説し、単元内において1つの問いを、キャラクターの囲み表示で適切に提示し、児童が見方・考え方を働かせて思考を広げて課題を追究しやすい点が優れている。ICT機器を活用して単元の学びを各自でまとめ、友達に紹介する学習活動が具体的な手順と共に示されている。資料を見ながら話し合う活動では、台詞や吹き出しを疑問形で示し、学習の方向づけや思考の視点を明確にすることで探究意欲を高め、適切な場面で振り返りを促す工夫が優れている。「教育出版」においては、「社会科で使う見方・考え方」を解説するページにて、社会的な見方・考え方を6つの視点・方法に分類して示しているが、キャラクターの発言の中に溶け込ませる程度にとどまっており、見方・考え方を働かせた学習を展開することが難しく、さらに学年によって構成が統一されておらず、どの学年でも同じように問題解決的な学習を進めにくい。単元の冒頭に興味をひくイラストや、歴史においては白黒写真をカラー化して掲示するなど、児童の単元へのイメージを持ち、関心を高める工夫がされ、単元を「まとめる」ページでは、具体的・視覚的に学習活動を提示し、児童が見通しを持って学習に取り組める点が優れている。「日本文教出版」においては、巻頭にて、社会的な見方・考え方を3つの視点に分類・解説したうえで、単元内で見方・考え方を明記し、具体的な学習活動を示すことで、問題追究する学習を展開しやすく、学習過程を示すことで主体的な問題解決につながる工夫がされている。話し合いの学習では、ICT機器の活用方法を具体的に示し、協働的な学習活動をイメージしやすい。随所に資料の調べ方のポイント等を解説するコーナーを設置しているが、資料の読み取り方では読み取りの手順を示めすものの、考え方の習得につながる記載が少ない。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考ええる。

地図2社について概要を御説明申し上げる。「東京書籍」においては、地図帳の使い方で、

凡例と索引が2ページにまとめられているため、やや情報量が多く、資料と資料の間の余白が狭い。全体的に色が濃くトーンも暗いため文字や地図記号等が読み取りにくく、土地利用のページと土地の高さのページがどちらを示した地図なのか判別が難しく、土地利用と土地の高低を関連付けて地図を活用するための配慮が弱い。地図と共に日本の自然や産業、災害などの資料を掲載するページが設けられ、地理的視点とあわせて、様々な視点で日本の今を捉えることができるよう工夫されており、各ページには活動を促す「マップでジャンプ」のコーナーが設定され、探究意欲を喚起する手立てとなっている。「帝国書院」においては、地図の活用に必要な知識が具体の地図と共に手順も含めて丁寧にまとめられ、大切な用語が文中に太字で示されているなど、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。全体的に地図は淡色で、文字の濃さが区別しやすく、ほぼすべての地図で、土地利用と土地の高さで統一して色分けがされ、バランスの良い色合いや立体感が感じられる表し方で、地図内の情報がたいへん読み取りやすい。歴史学習や環境教育など多様な視点で、対話的な学習を促す資料が用意されており、優れている。探究活動が進められるようヒントの提示や、地図から読み取った情報や社会科の学習内容と連動させて思考を促す問いが「地図マスターへの道」のコーナーにて設定され、地図と社会科を関連付けて思考力・判断力・表現力を培うための手立てとして優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「帝国書院」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考ええる。

算数科6社について概要を御説明申し上げる。「東京書籍」においては、問題解決の過程で働かせた数学的な見方・考え方が分かりやすく丁寧に可視化され、問題解決の展開を通して、基礎的・基本的な概念の育成に繋がるよう工夫されている。本時に働かせた見方・考え方を虫めがねマークと下破線で表し、問題に対して図や表、式に表して考えたり伝え合うコーナーを設けており、優れている。各単元の導入場面には児童の対話から単元全体の課題を発見する工夫がなされ、問題発見・解決的な学習が展開しやすい。「大日本図書」においては、既習事項との関連を図りながら学習が広げられるよう工夫されているが、情報量が多すぎる単元や抽象化までの過程説明に丁寧さが薄い単元があり、概念の意味理解の習得が難しい。常に使いたい見方・考え方は「キャラクター」で、問題ごとに使い分けられるものは「ひらめきアイテム」で設定・活用でき、4年生以上の巻末では、問題場面を数直線図に表現して式を求める力を身に付けることができるコーナーを設けている。各単元の導入では日常生活から児童が疑問や課題を見出し、主体的に取り組める題材をイラストで提示し、問題に対して見通しを持ちやすい構成となっている。「学校図書」においては、数、量、図形の基礎的・基本的な内容に重点化された構成で、既習事項を活用した体験や活動を重視し、発達段階に応じて、概念や原理の習得ができるよう工夫されている。見方・考え方を扱う場面では「考え方モンスター」が提示され、学習に活用できるようになっているが、高学年での示唆には誘導的すぎる箇所が見受けられる。3年生以上には問いを図や表に表す方法を提示するコーナーを設定し、問題解決に当たって、系統的に学習ができる点が優れている。各単元の導入場面では、既習事項を生かし、日常生活や身近な場面などから問題発見するコーナーを設定し、問題発見・解決的な学習が展開しやすい。「教育出版」においては、学習の系統性を踏まえ、スパイラルに学習を重ねながら概念や見方・考え方を広げ深めるようになっているが、解決過程の図に統一感が見られない単元もあり、概念の意味理解の習得が難しい面がある。巻頭にてキャラクターの吹き出しで見方・考え方を表現した「なるほど！」などのコーナーを設け、以降の学び合いの場面でも活用でき

るようになっている。2・3年生で、テープ図と数直線の見方・書き方、演算決定のときの活用の仕方を指導する準単元を設けたり、巻末に「学びの手引き」を掲載するなど、思考・表現の道具として定着できるよう工夫されている。児童の思考の流れで学習を構成することで見通しを持って進めることができ問題発見・解決的な学習が展開しやすくなっている。「新興出版社啓林館」においては、児童の発達段階や内容の系統性に考慮し、教材や展開の仕方が工夫されている。特に数図ブロックの配置や具体物操作、観察、数学的な考え方を働かせた問題解決等の体験学習は細かいステップを踏んで知識・理解が確実に身に付くよう配慮された点が優れている。価値付けたい見方・考え方にはマーカーを付して強調し、キャラクターのセリフとして表現され、2年生以上には見方・考え方を深める単元を設定し、問題を図や式などに表して考えたり、対話を促すようになっており優れている。単元の冒頭に日常生活や既習の学習と関連付け、児童自らが課題意識や見通しを持って学習に取り組める場面が設定され、日常生活から数学的活動を積極的に取り入れ、問題発見・解決的な学習が展開しやすく優れている。「日本文教出版」においては、数の意味や表し方、計算の意味などの概念を抽象化・一般化する過程が丁寧に扱われ、巻末にて数学的活動を促すなど、体験的な実感が伴った活動を通し、数・量・図形の感覚を養う工夫がされている。めあての近くに、見方・考え方を示し、数学的な表現や言語活動が充実するよう配慮されている。4年生以上の巻末では、数学的な表現の相互関連を整理する内容や、図の読み方・書き方を系統的に整理して掲載されている。結果や方法の見通しを立て、思考し対話するための着眼点を「算数で使いたい見方・考え方」や児童の吹き出しで示し、複数の考え方から、その問題解決に使える考え方を選ぶ活動も取り上げ、問題解決に至る過程が工夫されている。

以上を総合的に勘案した結果、「新興出版社啓林館」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えます。

理科6社について概要を御説明申し上げます。「東京書籍」においては、問題解決の過程で働かせる理科の見方・考え方がイラストや対話形式で示され、学習のイメージを児童がもちながら、深い学びに結び付くよう工夫されている。単元の導入では、児童が既習事項等を振り返り、学習過程を見通せるよう資料やイラストを配置し、主体的に学習を進めやすい。ICT機器を活用できる工夫をマークで示し、巻末では協働的な学びに生かせる発表や話し合いのポイントを掲載したコーナーを設け、児童が協働的に学ぶ意義に気付けるよう工夫されている。個に応じた記録方法・ICT機器の活用方法が紹介され、個別最適な学びと協働的な学びを展開できるようになっている。「大日本図書」においては、導入で2種類以上の事象を比較できる写真と共に、話し合い活動を行う場面を多く設定し、児童の思考が実験方法につながるようになっている。問題解決の流れを3段階に分けて色分けし、ラインでつなげることで、児童が見通しをもって問題解決的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。ICT機器の活用方法や記録方法など複数の表現方法を示し、学習で扱っていない教材や自然の中で見られる現象を紹介するコーナーを設け、児童が自然事象や科学への興味・関心を高め、発展的な学習に繋げる工夫がされている。「学校図書」においては、巻頭で、働かせる見方が領域ごとに整理・提示され、学習を冒険に見立て、見方・考え方をモンスターのキャラクターとして登場させ、学年が進むにつれキャラクターがレベルアップする設定になっており、児童に学習の楽しさを期待させ、どんな考え方をすればよいか、明確に捉えることができる点が優れている。単元中に、学習内容に関連させたコラムや実験・ものづくりなど、身近で発展的な学習につながりやすい内容が掲載されたコーナ

ーを設けている。ICT 機器の活用を提示し、個に応じた記録・表現方法を複数示し、伝え合いを通して学びを深める学習が進めやすい。「教育出版」においては、観察カードや実験結果の記録ノートの例が学習の流れに沿って示され、基本的な技能の習得が図りやすい。単元末の「ふり返ろう」には学んだことが整理され、「確かめよう」には学んだことを活用して説明したり、用語の意味を振り返る問題が豊富に設定され、学んだ用語や技能、知識を確認しやすい。単元導入は、写真や児童の気付きや疑問から問題把握ができる構成だが、問題の視点をすでに与えている単元が多く、児童と先生が対話しながら問題を見出す場面では先生の発言が強く方向づけをしており、主体的な学習や児童の対話を通した学習を促す工夫が十分ではない。「信州教育出版社」においては、観察カードや記録ノートの例を示し、観察・実験結果の整理の仕方が提示されているが、学んだ内容の重要な事柄の一部が抜け落ちている部分がある。導入場面では、自然の事物・現象や日常場面の写真が示され、問題づくりにつながるようになっている。結果の整理、考察の場面では、観察・実験のまとめが箇条書きで簡潔にまとめられ分かりやすいが、考察の促しが少なく、結果から結論への対話例等がない場合もあり、言語活動を促す工夫が弱い。他教科や実生活との関連を盛り込んだ読み物資料などが掲載されているが、全学年の資料は、長野県にちなんだ地域性の強い教材で、本市ではなじみが薄い地名が多くあり、植物等の生命の区分で、学習に適した時期がずれる場合などがある。「新興出版社啓林館」においては、単元を3段階の問題解決の流れをループ型で明示し、児童が見通しをもって学習に取り組み、学習中に見つけた疑問が次の学習につながることを意識しやすい構成となっている。身近な現象や学習の中で児童が自然と疑問に思う内容を分かりやすく示し、問題解決の過程を展開しやすくなっている。単元末の振り返りの後に学んだ知識を活用して考える問題や学習内容に関連した身近な話題を掲載したコーナーを設定し、児童の興味・関心を高め、発展的な学習に取り組める点が優れている。学習を進める上の注意事項を的確に提示し、安全のため持つべき視点を明確に学べ、観察・実験器具の操作法などは、学びの流れの中で必要なタイミングで単元間に記載されている点が優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「新興出版社啓林館」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えます。

生活科7社について概要を御説明申し上げます。「東京書籍」においては、学習のめあてなどの提示箇所を統一してレイアウトし見やすくすることで、学習の見通しをもちやすい。季節のまとまりごとに色分けして学習活動を示し、季節のまとまりを意識しながら学習することができる構成になっている。単元冒頭で活動写真を掲載することで児童の意欲を引き出し、話し合いや協力し合うことで、気付きの質が高まる姿を具体的に示したコーナーを設定し、気付きを引き出す工夫がされている。表現や交流をする方法や様子を分かりやすいイラスト等で例示し、試行錯誤や児童同士の交流を促すことで、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫されている。「大日本図書」においては、児童の会話などを多数掲載することで試行錯誤を促し、単元の振り返りでは多様な表現方法や発信の仕方について具体的に例示し、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫されている。見開きごとに活動内容が整理され学習の見通しがもちやすい。単元末の振り返りでは、自分の考えを記載する欄が設定され、活動を通して得た満足感や達成感を実感できるようになっている。「学校図書」においては、各活動が見開きページで完結され、各見開き左上に活動のめあてや児童の思い、各見開き右下には次の学習へつながる言葉が掲載され、学習に見通しが持ちやすくなっている。身近な人々や社会及び自然を題材とし、単元の冒頭

には魅力的な写真などを使った扉ページを設けて児童の学習意欲を引き出し、児童の気付きや思いを多様な表現方法で例示し、活動の様子を提示することで、児童が学習をイメージしやすいように配慮されている。「教育出版」においては、生活科の教科目標から「6つの力」を抽出してサイコロで表したものをページ左上に示し、学習のめあてが掴みやすく、各ページにある問いかけで気付きの質を高める工夫がされている。単元末では、試行錯誤や成長の過程が分かる学習カード等が例示され、児童の試行錯誤の一助となっている。親しみやすいキャラクターを登場させ、単元導入から振り返りまで児童の探究意欲を高め、主体的な学びを促す工夫がされている。巻末の「学びのポケット」では、実生活において活用できる能力等を他教科等の学習と関連付けられるようアイコンで分かりやすく提示している。「信州教育出版社」においては、単元を象徴する写真等を見開き全面に掲載することで児童の活動意欲を高め、自然豊かな地域で季節ごとの豊富な動植物や地域の伝統行事等に関わりながら体験と表現を重ねる単元など、活動の楽しさや満足感につながるようになっているが、特定の地域や環境に限定されるもので、本市での生活体験から乖離しており、実感を持った学習が進めにくい。児童の思いや願いから単元が始まり、伝え合いや交流を促す工夫がされているが、思考を促す活動は見えにくく、試行錯誤する意欲を促し、思考力・判断力・表現力等の育成につながる配慮や工夫が弱いものとなっている。学習内容を家庭生活等に生かせる写真等を掲載しているが、発展的な学習活動を促す工夫は少ない。「光村図書出版」においては、各単元を3段階で構成し、学習過程を写真やセリフ等で分かりやすく提示し、学習の見通しを持ちやすい。「学び方のヒント」で試行錯誤を促し、学びを深め多様な方法で交流活動する児童の様子を多く例示することで、児童がイメージをもって活動でき、思考力・判断力・表現力の育成につながる工夫として優れている。小単元ごとに「感情」と「思考・態度」両方の面から学習を振り返るコーナーが設けられ、児童が自身の思いを表現できるよう、多様な方法を詳しく紹介し発展的な学習が展開しやすいよう工夫されている。「新興出版社啓林館」においては、単元の導入は、単元扉と3段階で構成され、インデックスのようなレイアウト・色分けで視覚的にも見通しを持ちやすくなっている。活動がステップアップする際は、次の活動に向けての思いを例示した「めくり言葉」を右下に掲載し、単元のまとめには「ひろがるきもち」のコーナーを設け、単元を通して学びが連続的・発展的に深まり、成就感がもてるようになっている。身近なものを題材とし、キャラクターや児童・先生の豊富なセリフを色分けしたり、「びっくりずかん」などの多様な資料を掲載するなど、気付きの質を高める配慮がされている。

以上を総合的に勘案した結果、「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考える。

音楽科2社について概要を御説明申し上げる。「教育出版」においては、参考となる鑑賞曲や発展的な活動が用意され、オプション部分として歌唱・器楽教材や鑑賞教材の曲が充実しており、児童の実態に応じて弾力的に題材を構成でき、優れている。作者のメッセージを用意するなど、技能面とは異なる点での児童の学びを深める工夫がされている。学び方を具体的に示した「まなびナビ」などを設けているが、教材によっては記載がなく、ワークシートには気を付けるべき視点等があらかじめ表記されているなど、児童が見通しをもって学習し、思考を広げたり深めたりするための配慮が薄い。「教育芸術社」においては、全ての教材で学習目標を示し、音楽を形づくる要素を中心に各教材を結びつけた題材構成となっている。題材のねらいに即した学習が展開できるよう、「めあて」と「まとめ」を設定・提示し、マーク等を用いて学び方やポイントを示すなど、児童が見通しを持ちながら

学習を進め、次の学習につなげられるようになっている。各題材では音楽を形づくっている要素を軸に、複数の教材にて往還的に学習することで、題材を理解し、学びの関連付けを深められる点が優れている。テーマに沿った調べ学習などを提示したコーナーを設け、児童同士の協働的な学習を促すワークシートが用意されているなど、探求意欲を高め、発展的な学習を展開しやすい点が優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「教育芸術社」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考ええる。

図画工作科2社について概要を御説明申し上げる。「開隆堂出版」においては、各題材で、材料や活動場所、個人活動・グループ活動等がある程度選択できるよう配慮されている。擬音を用いた表現や、キャラクターの使用など、児童の興味を引き付ける紙面で、感性や想像力を働かせ、自分なりの意味や価値をつくり出す創造性を育成する活動につながるよう工夫されている。材料の多様な扱い方や視点を変えることを提示し想像力などを十分に働かせて自分なりの意味や価値をつくり出す学習活動が展開しやすい。表現の手がかりや対話のヒントとなる、事例作品のコメント、活動中の児童の対話内容などの掲載量や具体的な内容が少なく、思考力・判断力・表現力等の育成につながる配慮が弱い。「日本文教出版」においては、各題材に教科の目標が示され、写真や児童のつぶやきが多く掲載されている。題材ごとに「表現のヒント」などを設け、形や色などを意識させ、造形的な特徴を理解することができるよう工夫されている。活動中の様子や作品の写真等には、具体的な表現方法や工夫などが多数掲載され、児童が造形的な視点をもつことへの手がかりとなっている。高学年では、アイデアスケッチを例示したり、自分の考えを可視化し形や色で表したいことを整理しながら、発想・構想を広げられる「シンキングツール」の活用を示すなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながる点として優れている。各題材では、表現と鑑賞を一体として扱い、表現活動と鑑賞活動が往還する学習過程が提示され、表現と鑑賞の関連を図る手立てが示されている点が優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「日本文教出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考ええる。

家庭科2社について概要を御説明申し上げる。「東京書籍」においては、巻頭に「家庭科の窓」を設置し、家庭科の見方・考え方の視点が解説され、各題材の冒頭でも働かせたい見方・考え方を明示した「家庭科の窓」が設けられ、深い学びが実現できるよう工夫されている。各題材は3段階のステップにて学習の流れが展開され、問題解決的な学習を繰り返しながら、思考力・判断力・表現力等の育成につながるようになっている。ステップ末に設定されている振り返りにて、学習したことを実生活に生かせる工夫がされている。巻頭にはすべての題材の振り返りを書き込み、一覧にするページを設け、児童が自身の成長を実感し、次の活動につながるようになっている点が優れている。製作実習等の手順や基礎・基本となる技能は、写真等の視覚資料と説明文が丁寧に記載され、児童が安全と衛生を意識しながら学習を進めるための手立てが充実している点が優れている。「開隆堂出版」においては、各題材にて、「学習のめあて」が3段階で問題解決的に展開され、各題材の最後の「学習を振り返ろう」等で、「学習のめあて」のチェック欄に戻って振り返り、学んだことをどのように活用するか考えを書き込むことができる。巻頭の折り込み裏に生活の見方・考え方の4つの視点が解説され、各題材の冒頭でもその題材で意識する見方・考え方が掲載されている。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即し

た教科書であると考え。

体育科（保健）6社について概要を御説明申し上げる。「東京書籍」においては、単元の終わりに学習内容を振り返り、確認する項目を設定し、学習を実生活で生かせる活動が設けられている。単元冒頭と本文ページ内に他学年・他教科とのつながりが明記され、教科等横断的な指導や学習内容について系統性のある指導が進めやすい。「大日本図書」においては、各単元末に学習の定着のための「まとめ」ページが掲載され、学習内容を振り返りながら自分の理解度を確認することができ、保健の見方・考え方を働かせて、学習したことを実生活に生かす活動を毎時間ごとに設けるなど工夫されている。「大修館書店」においては、毎時間の最後に、学習内容を振り返り、自分の考えや意見などを書き留めるコーナーを設け、単元末でも、これまでの学習内容を再確認できるようになっている。授業内容の次のページには関連資料が掲載され、発展的な知識もすぐに確認することができ、優れている。「文教社」においては、「わたしの〇〇せん言」のページを設け、獲得した知識をさらに発展させる構成が随所に見られ、実生活に生かせる工夫が見られる。「光文書院」においては、各単元末で、これまでに学習した内容を振り返りながら確認するコーナーを設け、身近な場面を意識しながら習得した知識を活用して学習することができる活動が設定されている。「Gakken」においては、記述欄が多く用意され、学習内容をその都度確実に確認でき、学んだことをチェック方式で振り返るページが設けられている点が優れている。各単元末の「ふり返る・伝える・つなぐ」のページでは、学習した知識を生かし、他者へ伝えたい内容を書き込むようになっており、相手意識を持って自分の考えを表出するようになっている点が優れている。単元冒頭と本文ページ内に他学年・他教科とのつながりが明記され、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮され、系統的に学習ができるよう工夫されている。

以上を総合的に勘案した結果、「Gakken」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考え。

外国語科6社について概要を御説明申し上げる。「東京書籍」においては、単元導入時に示された学習到達目標や紙面構成から、児童が学習に見通しを持ちやすい。発表前に思考を整理したり、語順等を意識できるようになっており、付け足しに使える表現例や反応例等をイラストと共に英語表記で示し、話し手や聞き手が思考して活用でき、児童が情報を整理して発表するための工夫が優れている。学習した表現の活用を考えられるよう工夫され、単元を通して言語活動に取り組める構成になっており、5領域の目標がバランスよく、かつ適切な時期に育成されるようになっている。書き写したり読んだりする活動が順を追って設定され、4線の使い方や音に着目して習得させることが継続的に設定されている点が優れている。多様な切り口で外国と日本の文化や言語に対する理解を深めることができるコーナーを設けている点が優れている。「開隆堂出版」においては、発表の目的が明示され、何のために工夫するのが把握しやすく、内容を整理後に発表する流れを提示し、どの順番で発表するのか考えるよう工夫されているが、既習・新出表現等を使ってやり取りする活動では、完成した発表原稿が多く示され、思考しながら自分の伝えたいことを表現する力を育むための工夫が不十分である。各単元とも活動を繰り返し、その後の言語活動につながるようになっており、多くの単元において〔やり取り〕をした後、単元末に〔発表〕をするよう設定されている。世界の様々な行事や生活の様子などが動画で紹介され、外国への関心を高める工夫が随所にされている。「三省堂」においては、発表の場面では、発表の聞き手をグループから学級全体など2段階で児童の心理的負担を減らし、対話

的・協働的な学び合いが円滑にできる工夫がされている。単元ごとの言語活動ではコミュニケーションを行う必然性を児童が感じるよう工夫されているが、目的や状況などの設定が明確ではないものがある。言語活動を無理なく取り組める工夫や、読み書きの活動が順を追ってできるよう工夫され、[やり取り][発表]を各単元や複数単元ごとにできるようになっている。世界の祭りや生活などを外国語と日本語の両者を比較し、児童の外国への関心を高める工夫がされている。「教育出版」においては、単元初めで自分の考えを整理できるようになっているが、目的や状況等の設定が明確ではないものがあり、情報を整理し考えを形成し表現する活動への工夫が弱い。語句や表現を書き写したり読んだりする活動が順を追って設定され、多くの単元では[やり取り]後、単元末に[発表]を設定するなどの工夫が見られ、音の認識を深めたり、スモールステップで読み書き学習ができるコーナー等が設けられている。外国の学校の様子や外来語等について取り上げ、世界を身近に感じ、共通点も感じられるように工夫されている。「光村図書出版」においては、単元で学習した表現を使って自分のことを伝え合う活動が設定されており、既習表現を使った活動が2学年間を通じて学期ごとに継続的・系統的に設定され、語句や表現の定着を図り、英語を活用する力の育成につながる工夫がされている。児童が伝えたいことを新出表現だけでなく既習表現を使って伝えることができるよう工夫されている。各単元を4段階に分け、5つの領域別目標がバランスよく、適切な時期に育成されるようになっている。活字体の読み方・書き方・文字の形・名称と音の認識を学習するコーナーを設け、単語を読むことから一文を書くまで、2年間で段階的に学べる点が優れている。「新興出版社啓林館」においては、発表単元では、目標とする発表のあり様が明示され、そのための工夫を動画から見つける活動が設定することで工夫することへの意識づけに配慮されているが、表現を書き写す活動では、学年で分量や難易度の軽重がつきすぎバランスの偏りが見られる。各単元を3つのステップに分け、それぞれの中で聞く・話す活動を繰り返し、単元末の活動につながるよう工夫され、聞く話す活動を踏まえ、読み書きの活動が順を追って設定されている。読むことと書くことをセットにし、段階的に文字と音との関係を学ぶことができるよう配慮されている。外国の人へ日本の魅力を紹介する題材等を設け、児童が日本文化の豊かさに気付く工夫がされている。以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考え。

特別の教科 道徳6社について概要を御説明申し上げる。「東京書籍」においては、各教材末で提示される発問にて、児童の問題意識を喚起し、主体的に自己を見つめ、考えを深める学びを促し、各学年巻末には考えたことを記す「学習の記録」のページを設けている。併せて自分の考えを可視化し、話し合い活動を促すツールが複数例示され、4年生以上には何度も活用できる心情円が用意され、道徳的価値について多面的・多角的に考える手立てとして優れている。いじめ問題や情報モラル等を重点的な課題として全学年で扱い、特にいじめ問題については、直接的教材と間接的教材を組み合わせたユニットの形で取り入れたり、子どもの権利条約やいじめ防止対策推進法を紹介するなど、多様な視点から考える工夫がされている。「教育出版」においては、各教材末で提示される発問が道徳的価値に迫るものとなっており、各学年巻末には、1年間の学習を振り返り、記述するページが設けられている。低学年から、言語活動や体験的な学習が設定されているが、児童によっては教材文と現実を行き来しながら演じることが難しいことが考えられる。挿絵は人物などの表情が読み取りにくいものもあり、児童の思考の手立てになりにくい。いじめ問題や情報モラル等については、学年ごとに重点テーマを設定し教材とコラムをユニットの形で構

成して手厚く指導できる。また、SDGs のジェンダー平等に関する教材等が用意され、児童が多様な考えをもつことができるようになっている。「光村図書出版」においては、各学年巻頭に、内容項目が発達段階に応じたイラストや言葉で表現・解説され、道徳性を養うために必要な視点が理解でき、また教材冒頭では内容項目や主題、導入の問いを掲載することで見通しを持って学習に取り組める点が優れている。各学年巻末に、振り返りや自己評価を行うページを設けているが、1～4年生はシールで記録する形式で取り組みやすい一方、言語活動が伴いにくく、振り返りの工夫としては弱い。各教材では、体験をもとに道徳的価値について考えが深められるよう工夫され、また中心発問や多様な活動が例示され、教材の学習のねらいと対照させ、多面的・多角的な考えを引き出せる点が優れている。いじめ問題や情報モラル等を重点的な課題として、教材とコラムをユニットの形で構成するなど、多様に考えを深められるよう工夫されている。「日本文教出版」においては、各教材の冒頭には、内容項目が発達段階に応じた分かりやすい言葉で示され、また導入の問いやリード文等が掲載され、児童が教材の内容を捉えやすい点が優れている。各教材末で提示される発問は、道徳的価値に迫り、自己の生き方について考えを深め、学習を生活に生かせる工夫がされているほか、自己を振り返り、考えを深め、記録しておくことができる別冊「道徳ノート」を活用することで、書く活動の充実を図ることができる点においてもよく工夫されている。全学年に複数設けられている「ぐっと深める」では、他者との対話や役割演技など体験的な学習が豊富に提示され、問題解決的な学習や深い学びの実現の手立てとして優れている。現代的な課題に関連する教材の前後には、豊富な資料や学習活動を提示したコラム「心のベンチ」を設定し、より多面的・多角的に主題や内容項目等を考えることができ、特にいじめ問題については、直接的教材、間接的教材、コラムで構成された、ユニットの形で全学年に設定されており、優れている。「光文書院」においては、各教材の冒頭で内容項目や主題が分かりやすく表現され、発問が段階に応じて成長する鳥のアイコンで示される等、児童が学習のねらいを意識しながら考えを深められるようになっている。各教材末では、関連書籍を読む活動やノートにまとめる活動が提案され、多面的・多角的に学べるようになっている。各学年巻頭では、問題解決的な学習の流れと共に、思考ツールを用いた考えの深め方が提示されているが、具体的な使用が教材の中になく活用しにくい。体験的な学習等も少なく、ICT 機器の活用の例示等がなく配慮が弱い。いじめ問題やいのちの尊重を全学年共通の重点主題とし、該当する教材にはコラムが配置され、自分自身の生活と結びつけて考えるようになっているほか、情報モラルを題材にした教材などを全学年で取り上げている。「Gakken」においては、各教材の冒頭で、ポイントとなる言葉等を記し教材への興味関心が高まる工夫が見られるが、主題が掲載されおらず、児童が考え議論するための軸がぶれ、道徳的価値が捉えにくいと考えられる。各学年巻頭では、体験的な学習が例示されているが、例示されている教材数が少ない。各学年に適宜配置されている「心のパスポート」では、他教科等や身近な生活、現代的な課題につながる視点が提示され、広い視野から多面的・多角的に学べるようになっているほか、命、多様性、キャリアを題材にした教材の前のページには、関連する言葉や写真等が掲載され、同じ題材の教材を2つ続けて掲載するなど、系統性・発展性が意識された構成となっており、学習を深められるようになっている。

以上を総合的に勘案した結果、「日本文教出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。

各教科の選定理由については、以上である。

本日の議決にて採択されれば、これまでの選定委員会の概要や答申等について整理し、近日中に教育委員会のホームページで公開する予定である。また、採択された教科書を基に各教科の指導計画（京都市スタンダード）の改訂を進め、すべての市立小学校での主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう、より一層の充実に向けて取り組んでまいる。

（委員からの主な意見）

- 【松山委員】 理科について、実験の準備が教員の負担になると聞くが、教科書が変わることで実験用具などを改めて新しく準備する必要があるか。
- 【事務局】 実験内容や使用する器具が変わると大変であるのはそのとおりである。そのため、現在使用の教科書と新しい教科書について、実験用具や方法などを比較検討したが、そこまで大きな変化は見受けられなかった。
- 【野口委員】 外国語（英語）の発行者を変える一番のポイントは何か。
- 【事務局】 選定の観点2における、単元を通して言語活動をする際、児童が思考し、表現する点で「東京書籍」が優れている。初めての表現を既習事項と合わせて言語活動を高められる点や発表をすることは児童にとってハードルが高いが、友達や先生と意見交換や対話をしながら構築した考えを教科書に書き残すことで、思考の蓄積が目に見えてされていく点、また、発表する側だけでなく、聞き手側の返しや反応の仕方についても分かりやすく記載されている点が高く評価できる。
- 【野口委員】 生活科の教科書を教科間の繋がり の視点で拝見したが、他の科目に触れるプロセスが載っている点が評価できる。教科間の繋がりを意識して授業をしていただきたい。
- 【奥田委員】 観点別・視点別に詳細に評価いただいた。今回、理科・外国語の教科書が変更となるが、どのような理由で変わったか説明責任をしっかりと果たして欲しい。また、学習は1教科で完結するものではなく、教科間の連携が大切であることを意識して欲しい。現場の先生方への指導についてもしっかりと対応していただきたい。
- 【笹岡委員】 今回の採択に係る研究や調査にて得られた新しい教科書の知識を現場の先生方へ還元していただきたい。

（議決）

教育長が、「議第 10 号 令和 6 年度から令和 9 年度まで京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）において使用する教科書の採択について」について、各委員「異議なし」を確認、議決。

（4）その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

8月9日 文教はぐくみ委員会

8月9日 学校閉鎖日

～8月16日

8月15日 台風7号に伴う対応等

○事務局から当面の日程について説明

(5) 閉会

12 時 00 分、教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長